

震災で追われた人びと。  
それぞれに違った涙の色がある――

# 福島は語る

『沈黙を破る』『異国に生きる』『飯館村』

土井敏邦 監督作品

いまを生きるすべての人たちへ  
分断された私たちが綴り続ける14のメッセージ

[www.doi-toshikuni.net](http://www.doi-toshikuni.net)

監督・撮影・編集：土井敏邦 監音：藤口諒太 朗読・題字：高橋長英 写真：森住卓 挿入歌：「ああ福島」（李政美）  
後援：城南信用金庫 配給：きろくびと・ピカフィルム 2018年/日本/カラー/170分



東日本大震災から8年になる。

2020年の東京オリンピックを前に日本中が浮き足立つなか、フクシマは「終わったこと」として忘れ去られようとしている。

しかし、原発事故による放射能汚染で故郷や住処を追われ、生業を失い、「家族離散を強いられ、将来への希望を奪われた十数万人の被災者たちの傷は癒えることなく、腫み、疼き続けている。

その被災者たちが心底に鬱積した深い思いを吐露した。1000人を超える証言者の中から選り抜いた14の「福島の声」を、いま日本に住むすべての人に届ける。

- 第一章 「避難」 (25分)
- 第二章 「仮設住宅」 (16分)
- 第三章 「悲憤」 (15分)
- 第四章 「農業」 (29分)
- 第五章 「学校」 (14分)
- 第六章 「抵抗」 (15分)
- 第七章 「喪失」 (41分)
- 最終章 「故郷」 (15分)

電力発電所の事故の被害者たちが、心身の傷を、その本人たちが、あくまでも静かに、そしてあくまでも深く掘り下げて語るのを、

### 真剣に聞く映画です。

大震災の被害者が、口調が、これほど雄弁に一つの深い思いに結集した映画が、これまでにもあっただろうか、私は驚き、感動しました。

### まれにみる

### ドキュメンタリーです。

佐藤忠男 (映画評論家)

### この映画は涙なくして見ることは出来ない。

現在まで続く被害を封じ込めている「沈黙の圧力」とは、鈍感で浅薄な「無関心と忘却」だ。鉄の爪が大地に根ざして生きていた人々を容赦なく襲い、傷つけ、引き裂いた。この暴力に私たちひとりひとりが加担していないかをこの映画は問いかけてくる。

保坂展人 (世田谷区長/ジャーナリスト)

映画『福島は語る』で、避難を強いられた人たちの生の言葉に触れると、大きな声で叫びたくなります。

### 原発ゼロで日本経済を再生しよう。

7年の歳月が経ち、福島第一原発の悲劇の記憶が薄れる中、この映画では悲劇が終わるところか拡散・膨張している現実を思い知らされます。

吉原 毅 (城南信用金庫顧問)

広義の意味で人間はつねに「演技」をする生き物だ。カメラ一台を脇に置き、単身で対峙する土井敏邦監督は、インタビューの相手から最良のパフォーマンスを引き出す。どんな演技ロケ現場でも体験できない、

### 人間と人間の「対話」がここにある。

坂手洋二 (劇作家)



# 2時間50分の14人の証言が映し出す



杉下初男

1949年生れ。「帰還困難地域」の飯館村長泥地区の農家。脱サラして始めた石材加工の事業が軌道に乗る、家も新築。しかし間もなく、原発事故で故郷を追われ、家も生業も失い、さらに追い打ちをかける出来事が起る。

岡部理恵子

1988年生まれ。原発事故当時2歳と生後1ヶ月の子の母親。半年後に子供とともに郡山市から新潟県に自主避難。郡山市に残って働く夫は、ほぼ毎週、新潟へ通い続けるが、避難が長引くにつれ夫婦間の溝が広がっていく。

小野田陽子

1969年生まれ。原発事故当時、双葉町の小学校5年生の担任。事故直後から、各地に避難した子どもたちの近況を伝える手書きの「学年便り」を送り続けた。避難した子どもたちの心情を語る。詩集を出版。

藤島昌治

1946年生まれ。南相馬市小高町出身。原発事故後、南相馬市の仮設住宅に入居し、4年間、自治会長を務めた。その間、独り暮らしの心情や「仮設暮らし」から見える社会の歪みを詩に綴り、詩集を出版。

武藤類子

大河原多津子

中村和夫

松本徳子

村田弘

地脇美和

佐久間いく子

渡辺洋子

小野田敏之

星ひかり

# いまなお続く“深い思い”

監督・撮影・編集：土井敏邦 監音：藤川諒太 朗読・題字：高橋長英 写真：森住卓 挿入歌：「ああ福島」(李政美) 宣伝美術：野田雅也 ウェブサイト：安藤滋夫 後援：城南信用金庫 配給：きろくびと・ピカフィル 2018年/日本/カラー/170分

## 防府自主上映会

日時 2020年3月28日(土) 13:30-16:30 ※上映2時間50分+途中休憩10分

場所 地域協働支援センター ルルサス防府 多目的ホール(防府市栄町1-5-1)  
 ※防府駅てんじんぐち東のアスパラート2階と連絡。ルルサス駐車場をご利用下さい

入場料 前売り1000円 当日1200円 高校生以下無料 ※お子様連れで入場できます。託児なし

主催 エコシフトほうふ (問い合わせ=080-5326-6970、Ota35935@gmail.com 村田)

チケット取り扱い アスパラート(防府)、CS赤れんが(山口)、山口情報芸術センター、周南市文化会館